

第 2 回構想委員会に向けたコメント

2023 年 3 月 3 日

日本電気株式会社 遠藤信博

本日、欠席のため、文書にて意見を述べさせていただきます。

バリューチェーンにおけるオープンイノベーションに対する期待と、特許審査の品質強化の期待を申し述べます。

バリューチェーンにおけるオープンイノベーション

◇知的財産をはじめとする無形資産の更なる活用とその支援体制の構築

前回の委員会で、知的財産利用の最大化を標準化と言う観点から述べさせていただきました。企業の有する知財を市場に対して、より明示化する事で、知財の利活用の幅を拡げ、多くの高い市場価値をつくりあげていける可能性について申し上げ、日本の積極的な標準化活動の必要性と、体制構築の重要性を指摘させていただきました。

経済安全保障の観点から、国際競争力の高い価値を継続的に創造する事で国力を高める事が重要ですが、企業の有する知財をはじめとする無形資産の積極的な活用もその一つの貢献エリアと考えます。企業において、既に無形資産の活用がなされている領域においても、外部の人財活用による現存無形資産からの新たな価値の創造、更にはこれを用いた新たなビジネスモデルの創造と市場開拓の可能性があり、無形資産の最大活用の可能性を探り、これを支援する仕組みの構築が有用と思います。

当社では、AI に関する無形資産をカーブアウトし、スタートアップ等の外部の優秀な能力を持つ人財を活用、リンクさせることによる、より高い価値創造にトライしております。無形資産を社内に保有したままでは開拓が困難な活用領域で、外部の優秀な人財を活用でき、新たな価値が得られています。多くの起業家と接触し、自社では見いだせなかったアイデアをいただくことで事業化に至る機会も増え、そのスピードも加速するなど軌道に乗っています。

一方で、自社の技術の外部への見える化が進んでも、需要がなければ無形資産は使われなままです。人財や起業家とのマッチングや、自社の保有する技術に需要があるかどうかの感触をつかめる様な、公の支援の仕組みがあることで、知財の有効活用のインセンティブとなり、無形資産の更なる活用に対する活動が一層進むものと考えます。

◇バリューチェーンによる価値創造時の無形資産の管理について

今後、データドリブンによる全体最適型ソリューション (=スマートソリューション) の価値創造が大きな人間社会への価値貢献となってゆくと考えますが、これらは、一社で

は価値創造できず、業際を超えたバリューチェーンを構成し、オープンイノベーション型の価値創造の形態が非常に重要視されてくると思います。この場合、価値源泉はバリューチェーンに参加する各社からもたらされるものもあれば、バリューチェーンが構成されて生まれるものも出てくるでしょう。それぞれの貢献をしっかりとマネジメントして、公平に評価していくことが、バリューチェーンの構築を推し進め高い価値を創造する事となるでしょう。特に今後は、データシェアリングによって生み出される価値が非常に大きな意味を持つようになると思われます。各企業が持ち込んだデータやリアルタイムで生成されるデータについて、その企業だからこそ生成できた価値貢献の高いデータがあるとするならば、その企業の貢献を適切に評価できる仕組みについても、早急に検討し、国際的なルールとして相互の認識を高める事が重要であろうと思われます。政府を主体としたルール構想を期待します。

特許審査の品質強化

既に、特許審査の品質向上、特にスピードアップについては、大変多くのご努力をいただいております。日本の特許の価値を上げていただいている事に感謝を申し上げます。

一方、AIをはじめとし、技術の発展や移り変わりが激しい時代を迎えており、新たな技術領域や領域横断的な発明が増えてくるなど、特許審査の複雑化・高度化が一層進むと思われます。上記の環境下に対応し、我が国の新しい発明が、適切に保護され、国力強化の源となっていくために、特許審査の品質の更なる強化と、スピードアップへの努力が必要と考えています。このため、特許審査の為の継続的人財の育成と、審査における内部ネットワークの強化により、新技術領域や領域横断的な特許に対応する審査体制を構築いただく事が重要と思います。引き続きの取組み強化を期待しております。よろしくお願い致します。

以上